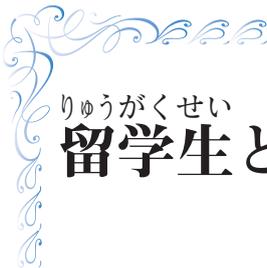


みどり 緑のかけはし

<第9号>

〒981-8555
仙台市青葉区堤通
雨宮町1番1号
東北大学農学部・
農学研究科
国際交流委員会
No.9, 2009

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)



りゅうがくせい よ こうりゅう 留学生とより良く交流するには？



こくさいこうりゅう い いんかい い いんちよう
国際交流委員会委員長 南 卓志

とうほくだいがく 東北大学では、さまざまな国からの留学生が教育を受け、研究に取り組んでいます。私が授業やゼミ、研究発表等で留学生に接する時には、日本の学生に対するのと同じで、よりわかりやすい授業をすることを心がければ良いのですが、日常的に良い交流を持つにはどうしたらよいのでしょうか？

くに だいがく は、留学生に対して学生生活をサポートするために、学生寮の整備、奨学金、図書の実、相談室の設置、ティーチングアシスタントの配置など、留学生が不自由なく学生生活を送れるように制度の実をはかっています。

それはそれとして、私は、雨宮キャンパスで挨拶をした時や留学生の顔を見ると、あの学生は、母国から離れてホームシックにかかっているだろうか？ 友人がなくて寂しくないだろうか？ きちんと食事をしているだろうか？ 勉強や研究はうまくいっているだろうか？ 先生と気まずい関係になっていないだろうか？ 変な男（または女）にひっかかっているだろうか？ などといろいろ気になります。しかし、ほとんどは「よけいな世話」「取り越し苦労」。

実は、留学生達は私が心配するようなひ弱な学生達ではなく、もっとしっかりしていて、自立しているようです。母国を離れて勉学をする決意で日本に来たので、日本人学生に比べればずっとしっかりしていて当然。それに、本当に困った事が起きた時には、先生に相談するより日本人学生に相談の方がよほど助けになるかもしれませんし、留学生同士で助け合っているのでしょう。留学生同士が母国語で早口で喋っているのは、そのような会話なのかもしれません。日常的な事柄や、私的な事柄で、教員はあまり役に立たないのでしょうか？ その方がよい事態なのかもしれません。

では、教員と留学生はどんな付き合いができるのでしょうか？

日本のある大学に留学している留学生と学会で知り合い、彼の研究発表が大変興味深かったので、「今度、私の研究室に来てくれたらもっといろいろと研究の話をしよう」と軽い気持ちで言ったところ、後日、本当に私の研究室を訪ねて来たのでした。彼の研究に対する真剣さは強烈で、つつい私も気合いが入ってきて真剣勝負の議論になりました。以来、研究の事ばかりでなく、いろいろな話ができるようになったのです。こちらから積極的に働きかけなくとも、学生の方からこちらに飛び込んでくるのですね。

ほとんどの留学生達は、積極的に意欲的で熱心です。しかし、これは留学生だからという理由によるものではない、という見方もできるのです。

海外の大学や国際学会に参加し、学生達と交流する機会がありました。ポルトガルのリボン大学。講演が終わっ

懇親会になると、教員、学生入り交じってワインを飲みながらのディスカッションです。私は全くお酒が飲めない
ので、すっかり受け身になってしまいました。お酒が飲めると有利なのかも。中国の上海海洋大学での事です。私の
講演後の休憩時間に、数人の学生が近づいてきて、「先生、私の研究結果にコメントしてください！」と稚魚の生態
調査結果の図表を差し出しました。上手な英語だったことに、中国の学生ってすごいと感心しました。調査結果のレ
ベルは、平均でも熱心さに圧倒されました。マレーシアのマラヤ大学。ここでも学生達は私の研究についていろ
ろと質問し、論文のリプリントを送って欲しいと要望されました。日本に帰ると、すでにメールが届いていました。
マレーシアでは、懇親会にお酒が出ないので、私としてはホッとしました。ジュースを飲みながら、研究の議論が弾
んだのでした。日本への留学生に限らず、私が会った海外の学生達は、みんな積極的できわめて研究熱心で、好奇心
のかたまりでした。

両宮キャンパスのある先生は、スポーツを通じて留学生と親しく話ができるようになったそうですし、ある先生は、
ときどき飲み会をして意気投合しているとも聞きます。また、ある先生は全然特別扱いをしない。それでも留学生の
方からいろいろと話を持って来る。自然体だそうです。つきあい方もいろいろですね。

どうやら留学生に対して私があればこれと気をつけて親しく交流する方法を考える必要などはなく、お酒が飲めな
くても、中国語や韓国語やスペイン語ができなくても、農学部で勉強し、研究に取り組んでいるという共通の気持ち
があるだけで、留学生とも気持ちが通じ合えるのだな、というのが私が考えた末にたどり着いた結論だったのでした。

東北大学の日本人学生諸君も留学生と積極的に交流して、いろいろな国の文化や習慣に触れ、見聞を深め、海外の
友人を得る中で、専門の勉学を研鑽すれば、きっと視野が広がり、すばらしい大学生活が送れるだろうと期待してい
ます。

留 学 生 紹 介

昨年4月・10月に新しく12名が新たに留学生としていらっしゃいましたのでご紹介します。

- 事 項
- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 国籍 2. 年齢 3. 在籍課程 4. 所属分野 | <ol style="list-style-type: none"> 5. 研究テーマ 6. 出身校 7. 趣味・特技 8. 自己紹介 |
|--|---|
- ※年齢・在籍課程等については、2009年3月1日時点での記載をしています。

宋 相 憲

1. 韓国
2. 30歳
3. 大学院博士後期課程
4. 動物生理科学
5. 脂肪細胞の分化に関する遺伝子の研究
6. 尚志大学・信州大学
7. お酒を嗜むこと、つり
8. 私はソンと申します。3年前に信州大学に交換留学で来日したことが機会となり、日本と御縁ができ、今回、東北大学に来ました。自分が東北大学に来た理由は必ずあるはずですが、その理由というのは、自分の目的を達成することであり、夢を叶えることです。その夢が夢だけで終わらないように、東北大学という船に乗っている方々と共に日々努力をし、一日の終わりを充実した気持ちで迎えたいと思います。宜しく願います。



王 暁 麗

1. 中国
2. 22歳
3. 学部特別聴講学生
4. 水産資源化学
5. 未定
6. 上海海洋大学
7. 旅行、映画鑑賞
8. 私は中国河南省出身の王と申します。2008年4月に仙台へ来ました。1年とはとても短いので精一杯の努力をし、友達を大切にして、日本での生活の全てを貴重なものにしたいと思っております。多くの知識と経験を蓄えるために頑張っています。



張 雅 青

1. 中国
2. 28 歳
3. 大学院博士後期課程
4. 経営情報学
5. 中国における交易条件の変化と農業政策に関する研究
6. 中国人民解放軍陸軍指揮学院・岩手大学
7. 映画鑑賞、旅行、楽器演奏
8. 私は中国の北京から来ました。2008年4月、東北大学の博士後期課程に進学しました。日本の文化・歴史・経済に強い関心を持ちながら、様々な国際交流活動に参加しました。日本の方のみならず、いろいろな国の人とふれ合い、各国の文化や習慣を通して人と接することを学び、大変良かったと思います。私の出身地である北京は中国の政治・経済・文化の中心として有名です。皆さん、ぜひ北京にいらしゃってみて下さい。



李 沿

1. 中国
2. 23 歳
3. 学部研究生
4. 応用微生物学
5. 食品の微生物について
6. 大連民族学院
7. 旅行、水泳
8. 私は中国黒龍江省の出身で、日本に来たばかりです。現在、応用微生物学研究室に在籍しています。新しい技術や知識を習得したいと思っています。



海 燕

1. 中国
2. 23 歳
3. 学部研究生
4. 作物学
5. 未定
6. 内モンゴル民族大学
7. バスケットボール
8. 私は海燕と申します。2006年に内モンゴル民族大学を卒業し、昨年の10月から日本に来て勉強しています。日本の農業や文化など、たくさんの事を学びたいと思っていますので、皆さんどうぞ宜しくお願いいたします。



クオン・グ・リ

1. 韓国
2. 21 歳
3. 学部特別聴講学生
4. 植物遺伝育種学
5. 特に無し
6. 国立ソウル大学
7. 読書、絵を描くこと
8. 韓国から来たクオン・グ・リと申します。1年間交換留学生として日本に滞在します。日本についていろいろなことを経験したいです。今は日本語の勉強を一生懸命にしています。宜しくお願いします。



林 文 教

1. 中国
2. 27 歳
3. 学部研究生
4. 地域計画学
5. 環境低負荷型農村社会の構築
6. 福建師範大学
7. 中国将棋、卓球
8. 私は中国福建省から2008年11月に日本に来たばかりです。日本語があまり上手ではないので、毎日一生懸命日本語を勉強しています。大学院入学の夢を早く実現させたいです。日本は初めてで分からないことが多いですが、周りの方からたくさん支えられており、感謝したいと思います。これからどうぞ宜しくお願いします。



モハメド アリーフ ソレー Mochamad Arief Soleh

1. インドネシア
2. 28 歳
3. 学部研究生
4. 作物学
5. Effect of CO₂ and temperature on photosynthesis, N fixation, growth and yield of soybean
6. バジャジャラン大学
7. インターネット、バドミントン
8. 私はインドネシアのバンドン出身で、ニックネームはアリーフです。現在、作物学分野の研究生です。東北大学で研究できるこの機会に、同じく海外から来ている留学生と良い関係を築き、日本の文化をもっと学び、そして、農業に関する多くの知識を身に付けたいと考えています。



た な
塔 娜

- 1. 中国
- 2. 23 歳
- 3. 学部研究生
- 4. 応用微生物学
- 5. 食品の微生物について
- 6. 内蒙古農業大学
- 7. 作文・映画・音楽鑑賞



8. 塔娜と申します。モンゴル民族の中国人です。2008年10月に日本へ来ました。日本に来たばかりで日本語ができませんのですが、学友の皆さんの協力のおかげで楽しく生活しています。私は日本の先進の科学と技術を勉強しながら日本語の勉強をしています。皆さんよろしくお祈いします。

ヴェロニカ ガジョ ラルコ
Veronica Gallo Larco

- 1. ベルー
- 2. 25 歳
- 3. 学部研究生
- 4. 水産資源化学
- 5. 寒天の用途開拓
- 6. サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学
- 7. スポーツ、茶道



8. はじめまして。私はガジョ・ヴェロニカです。ペルーから来ました。海藻の研究をしています。茶道とバドミントンに興味があります。どうぞ宜しくお願いします。

ボロディオス グレゴール カルベンテロ
Burdeos Gregor Carpentero

- 1. フィリピン
- 2. 28 歳
- 3. 学部研究生
- 4. 機能分子解析学
- 5. Conjugated Fatty Acids
- 6. Nothern Mindanao State Institute of Science and Technology
- 7. 料理、歌、バレーボール



8. 私は来日前、フィリピンで中学の教師をしていました。そこで、生物学を教え、研究をしていました。日本語は東北大学国際交流センターで習得しました。日本の文化はとて多様で私たちのような外国人にはとても興味を抱かれます。現在、私は機能分子解析学の研究生をしています。日本滞在のこの経験が、有益で習得すべき価値の高い、大きな意義のあるものとなるように願っています。

ゆう ほえー
于 慧

- 1. 中国
- 2. 26 歳
- 3. 大学院研究生
- 4. 水産資源化学
- 5. ステビア抽出物の抗酸化物質の解明
- 6. 上海海洋大学
- 7. 旅行、バドミントン、料理



8. 私は于と申します。2008年10月に来日しました。今、研究生として勉強しており、2009年の4月から博士課程に入る予定です。私は3年前に上海海洋大学から特別聴講生として現在の研究室に1年間留学しました。とても楽しかったです。その後、中国で修士課程を修了し、この度博士号を取得するために来ました。日本で暮らすのが大好きで、これから専門技術と知識を学びながら日本の文化と生活をいろいろ体験したいと思っています。皆さんどうぞ宜しくお願いいたします。

平成20年度学術交流協定校間交流および活動実績報告

イタリア・ラキユラ大学実験医学部、スウェーデン農科大学獣医学部

動物生殖科学分野 教授 佐藤 英明

イタリア・ラキユラ大学実験医学部

Palmerini Maria Grazia 博士が2008年9月21日 - 12月21日まで3カ月間、動物生殖科学分野に滞在し、卵子アポトーシス及び卵巣血管形成に関する研究を行った。帰国に際して実験サンプルを持ち帰り、ラキユラ大学電子顕微鏡センターで解析を行っている。卵胞発育に関する原著論文を Dr.J.Y.Jiang が第一著者となつて Histol. Histopathol. (23:1387-1398, 2008) に共同で発表した。また、Dr.Sandra Cecconi が第一著者となつてマウス卵子における Akt の発現に関する論文を共同でまとめ投稿した。Prof.Guido Macchiarelli が来日し、今後の共同研究及び国際解剖学会 サテライトシンポジウム開催 (2010) について打ち合わせを行った。なお、交流協定の延長が農学研究科教授会で承認された。4月6日に発生したイタリア中部大地震により大学の建物は大きな被害を受けたとの連絡があった。しかし、人的被害はなかったとのことでホッとしている。



学生による Palmerini Maria Grazia 博士 (中央) の送別会 (2008年12月)、右より杉村智史 (学振特別研究員)、Woro Anindito Sri Tunjubg (インドネシアからの留学生、D3)、坂井知津香 (4年生)、寺下伽里 (4年生)

スウェーデン農科大学農業・景観計画・園芸学部及び獣医学部

動物生殖科学分野・佐藤英明教授と獣医学部・Prof.Heriberto Rodriguez-Martinez は、2008年6月にハワイで開催した 1st World Congress on Reproductive Biology のプログラムに関し意見交換した。また、Prof.Heriberto Rodriguez-Martinez が中心となつて Reproduction in Domestic Animal の編集に関し、ウブサラ、バルリン、ゲルフ、仙台を結び Teleconference を開催し、意見交換するとともに今後の共同研究の打ち合わせを行った。応用動物科学系が主体となつて Prof.Heriberto Rodriguez-Martinez を日本畜産学会名誉会員に推戴し、第110回大会 (日本大学) で正式に授与が決定した。

平成20年度の上海海洋大学との交流実績報告

水産資源化学分野 教授 佐藤 實

平成20年度は上海海洋大学との交流は例年になく活発であった。3月に平成19年度学部特別聴講学生汪陸翔君が1年間の滞を終え帰国したのと交代に、4月に平成20年度特別聴講学生王曉麗君が来日した。女子学生の王君は海洋生物科学系3年生に加わり、学生実験はじめ様々な講義を受講し、熱心に勉学に取り組み、多くの単位を取得した。その間、川内キャンパスの日本語教室に通い、めきめきと日本語能力を向上させ、研究室学生との日本語での会

話はほとんど不自由なく行えるようになった。年末の日本語検定(2級)にも見事な成績で合格した。彼女のファンは彼女の帰国の際に中国までついて行ったほどである。

6月には、水産資源化学分野修士2年生の内田修平が上海海洋大学に短期留学し、「上海料理食材の機能性情報の収集」のテーマで研修を行ってきた。東北大学からの同大学への学生留学は内田君が初めてであり、心配されたが、内田君は当初の研修活動や研究成果発表など学術的な取り組みをしっかりとこなすとともに、上海海洋大学の学生と交流を深め、人気者になったようである。

9月になると、上海海洋大学大学院生于慧君が「中国留学生5000名奨学生制度」に採択され来日した。彼女は平成17年度に特別聴講学生として1年間東北大学農学部在籍しており、2度目の来日で、外国人留学生特別選抜試験に合格し、平成21年4月より大学院博士課程後期3年の課程に進学することが決定している。

平成21年3月には、農学研究科国際交流委員長の南卓志教授を団長として、遠藤宜成教授、私佐藤實の3名が上海海洋大学を訪れ、「地球環境保護における海洋環境の重要性」のテーマで国際シンポジウムを両大学で開催した。上海海洋大学からは程裕東副学長はじめ、王錫昌食品学院院长、奚印慈副教授(平成9年3月東北大学農学研究科博士課程修了)など教員、大学院生が多数参加した。シンポジウムは上海中心部の旧キャンパスから昨年9月に移った上海浦東空港に近い新キャンパスで開かれた。市中心部から離れた立地環境であるが、旧キャンパスの10倍はあるかと思われ、移動に車や自転車が必要なほどの広大な新キャンパスは、各学院(学部・研究科)の建物、講義棟、学生実験棟、図書館、体育館、学生寮、管理棟、ゲストハウスなどが統一されたデザインで整備されていた。平成19年11月に大学院での講義で訪れた時は、管理棟と図書館が建設中だけであったことを考えると、その後の整備の早さに驚いた。

シンポジウムは大成功であった。東北大学の3名の先生方の発表は特に関心が持たれ、多くの質問が出され、時間の関係で打ち切る程であった。普段の講義でもこのような活気があれば良いのだがとの感想を述べられた先生も居られた。

私事で恐縮であるが、この国際シンポジウムに先だち、両大学の学術交流に貢献したとのことで、上海海洋大学より感謝状を頂戴した。これも研究室で学んだ奚印慈氏が両大学の間を取り持ち、交流のきっかけを作ってくれたお陰であり、感謝している。これを機会に、両大学の教職員、学生の交流が益々盛んになることを期待している。

■ガジャマダ大学およびブラウイジャヤ大学(インドネシア)との交流■

国際開発学分野	教授	よね くら	ひとし
		米 倉	等
准教授		ふゆ き	かつ ひと
		冬 木	勝 仁
助教		かわ しま	しげ かず
		川 島	滋 和

昨年度、農学部資源環境経済学系の3年生を対象に開講されている「社会調査実習」をインドネシアにおいて実施した。国際コミュニケーション能力の向上や農業・アグリビジネス分野での国際的視野を広めることが目的である。

2008年11月14日から23日まで、インドネシアのジョグジャカルタ特別州と東ジャワ州において、農村調査とアグリビジネス調査を行った。農村調査では、稲作地域と畑作地域の2つの集落を訪問し、農村での生活について聞き取り調査を行った。また、アグリビジネス調査では、茶のプランテーション、タバコ工場、酪農協同



ガジャマダ大学(本学との大学間協定校)にて記念撮影

組合、製糖工場等を見学した。実施にあたっては、本学との大学間協定校であるガジヤマダ大学農学部社会経済学
 科の Jamhari 准教授、ブラウイジャヤ大学開発支援システム研究機構長 Maryunani 教授、バギリラン農園の Hartono
 前代表（ガジヤマダ大学准教授）に格段の便宜を図っていただいた。また、両大学の学生には、通訳として社会調査
 実習に同行していただくとともに、学生達の良き話し相手にもなっていただいた。ここに深く感謝の意を表したい。
 海外での社会調査実習という初の試みであったが、学生達からの評判も良く、2010 年度からは正式にカリキュラム
 に取り入れられることになった。こうした取り組みを通じて、少しでも多くの学生がインドネシアをはじめとするア
 ジア諸国に興味を持ち、今後の国際交流の礎となることを期待したい。



農村調査の様子

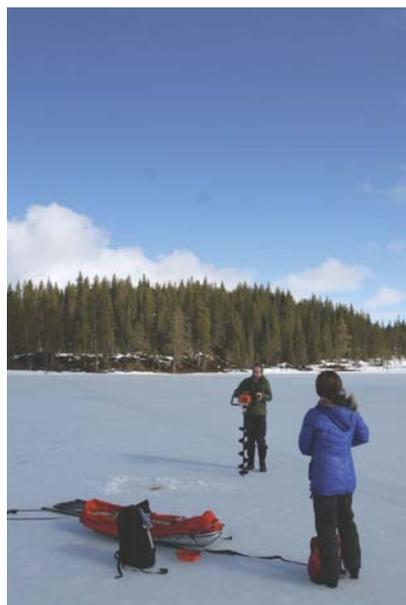


バギリラン農園にて記念撮影

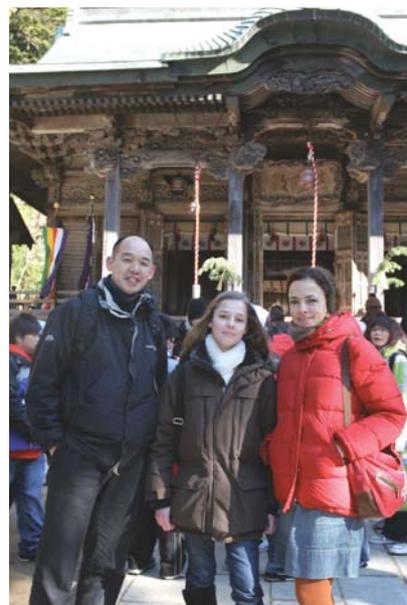
■ ウプサラ大学（スウェーデン）との交流 ■

複合生態フィールド教育研究センター 生物共生科学分野 准教授 陶 山 佳 久

2002 年に始まったウプサラ大学の研究者との交流は、本年度もますます充実したものと進化した。まず 4 月
 初旬には 2 週間ほど私が当地を訪問し、交流研究者らとともにスウェーデン中部の山中に出かけた。氷結した湖に穴
 を開けてボーリングを行い、湖底泥に含まれる花粉化石を採取するためである。雪に覆われた針葉樹林の中を、ト
 ナカイの群れを横目に見ながらソリをひいて移動する行程は、ちょっとした探検のようでもあり、私にとって貴重
 な体験となった。その後、10 月にはあらためて 3 週間ほどウプサラ大学を訪問し、採取した試料の DNA 分析を行っ



氷結した湖で湖底泥の採取を行う
 Keith 教授と Parducci 博士



来日中の Parducci 博士と娘の Greta
 を初詣に案内した

短い期間ではあったが、相変わずの快適な研究環境を存分に生かし、多くの研究者と交流しながら充実した時間を過ごすことができた。さらに12月には、今度はウプサラ大の Martin Lascoux 教授を日本に招いたほか、12月中旬から翌年1月初旬にかけては、同大の Laura Parducci 助教が3週間ほど鳴子のフィールドセンターに滞在して共同研究を進めた。これらの招聘は、お互いの人間関係を深いものにする機会となり、今後の共同研究体制をより確固たるものにする強力な後押しとなった。お互いにいつでも好きなききに訪問できるという信頼関係をこれからも大切にして、今後も充実した交流を続けていきたいと考えている。



滞在した進化生物学研究センター入り口に立つ著者

ふぞくし せつけんがく じっし 附属施設見学の実施

3月14日、15日に農学部・農学研究科に在籍する留学生を対象として、女川にある複合生態フィールド教育研究センターおよび松島水族館への旅行が実施されました。

以下は参加者の感想です。

えんがんせいぶつせいさん がく
 沿岸生物生産システム学
 ナム ウォン シク
 南 阮 植

女川は海に恵まれ、日本の水産業に最も大きい影響を与える重要な港町の一つです。主に行われている漁業の生物種はサンマ、カキ、カツオなどがあります。駅から東北大学フィールドサイエンスセンターまで来る間に、マリナルという魚市場があります。ここでは女川湾と近隣海域からとった魚や貝類が広く出されていて見物も買いものもできます。本当に新鮮な魚が多種多様出されており、あれもこれも全部刺身にしてその場で食べたくなるくらいでした。マリナルの見学が終わって海の景色を見つめながらセンターまで来ました。センターではそれほどまでに食べたかった新鮮な魚の料理がいっぱいあり、留学生の皆さんと一緒に食べました。特にカキ鍋とナマコの刺身は新鮮でとても美味しかったです。



さくもつがくぶん や
作物学分野
かい えん
海 燕

2009年3月14・15日に女川の複合生態フィールド教育研究センターの見学に行きました。とても楽しかったです。翌日には松島水族館にも行きました。中国では見たことのないいろいろな魚を見て、魚にはこんなに多くの種類があることを初めて知りました。

一緒に参加した韓国とフィリピンからの留学生と知り合い、会話をして、それぞれの国の面白い話を聞くことができました。以前はお刺身が苦手でしたが、女川の交流会でご馳走になったお刺身はおいしく食べることができました。日本の社会や文化について知識を広めるためにも、そして、留学生との交流を深めるためにもまた参加したいと思います。

きのうぶん し かいせきがくぶん や
機能分子解析学分野

ボロディオス グレゴール カルベンテロ

Burdeos Gregor Carpentero

イクスカージョンは留学生たちが自然の美観を体験するのに役に立つと思います。海洋に生存している生物と環境の相互関係を見ることができました。その他、東北大学の先生方や研究者の方々と話す機会がありさまざまなことを習いました。また、留学生たちはお互いに異文化間の交流をし、日本人の学生たちとの話すことで日本語を学びました。全体的に、このプログラムは素晴らしいと思います。来年もっと楽しい経験ができることを期待しています。



きのうぶん し かいせきがくぶん や
機能分子解析学分野

フゲジレット
呼格吉楽図

生物産業創生専攻機能分子解析学の呼格吉楽図と申します。今回の見学旅行に参加し、留学生のみなさんと交流がもて、充実したひとときでした。女川の周囲の景色が美しく、癒されました。見学だけでなく、こうした交流の場を設けていただき、国際交流委員会の先生方には本当に感謝しています。公開セミナーに参加させていただいたこともいろいろ勉強になりました。そして松島水族館を見学するのは初めてでした。故郷の内モンゴルには水族館がないので、とても貴重な体験ができました。ご支援に報いることができるよう、専門の機能分子解析学の勉強を一生懸命頑張りたいと思います。



さくねんど ひ つづ こんねんど おながわ し せつけんがく こくさいこうりゅう い いんかい き かく
昨年度に引き続き今年度も女川フィールドセンターの施設見学を国際交流委員会で企画しました。

いちにちめ おながわ けんがく うみ はじ み がくせい どうちゅう うみ あらわ とし みな
一日目は、まずマリナル女川を見学。海を初めて見る学生さんもいたようで、道中、海が現れた時の皆さんの
かんどう
感動ぶりにはビックリしました。その後、女川フィールドセンターで、研修会・懇親会に参加。懇親会では、新鮮な
ぎょかいりい つか めいぶつ なべ ふ ま みなみせんせい も き いただ ちゅうごく
魚介類をふんだんに使ったフィールドセンター名物の鍋を振る舞っていただき、南先生に持って来て頂いた中国のお
さけ
酒とともに大変おいしくいただきました。

ふつ か め まつしますいぞくかん けんがく こんねんど しよくいん かた あんない ふ だん みな すいぞくかん うらがわ けんがく
二日目は、松島水族館を見学。今年度も職員の方に案内していただき、普段なかなか見れない水族館の裏側を見学
させていただきました。アシカのショーに大興奮の留学生の皆さん表情は、いまだに忘れられません。

さいご いただ せんせいがた しよくいん がくせい みな こころ かんしゃ
最後になりましたが、お世話をして頂いた先生方、フィールドセンターの職員および学生に皆さんに心より感謝し
ております。

がつ にち おながわ けんがくりょう こうし どうこう
3月14・15日、女川にあるフィールドセンター見学旅行に今年も同行させていただきました。

じゅうよつか あまみや しゅうぼつ ひるちか おながわ どうちやく おながわ けんがく けんがく
14日、雨宮キャンパスをバスで出発し、昼近くに女川へ到着。まずはマリナル女川を見学した後フィールドセン
ターへ入り、当日開催されていた公開セミナー「遺伝資源としての水産生物-生産と保全の両立をめざして-」に参
はい どうじつかいさい こうかい い でん し げん すいさんせいぶつ せいさん ほぜん りょうりつ
加させていただきました。私自身このようなセミナーに出席する機会がなかったため、エゾアワビやアゴハゼとい
か わたくし しん しゅつせき きかい うみ さち したつづみ う
った海の生物についてのお話を興味深く聴かせていただきました。

ご こんしんかい ひ つづ き じませんせい みな こらい じかい もう こうふく
セミナー後の懇親会に引き続き、木島先生はじめセンターの皆さんのご厚意により2次会を設けていただき、口福
こうふく しんせん ぎょかいりい つか かいせん しよくいん がい うみ さち したつづみ う
は幸福、新鮮な魚介類をふんだんに使った海鮮なベヤナマコ・ホタテ貝のお刺身といった海の幸に舌鼓を打ちながら
はなし はず
話も弾みました。

ふつ か め ない めぐ おこ けんきゅう き じませんせい くわ せつめい
2日目はセンター内を巡りながら、センターで行なわれている研究について木島先生から詳しくご説明をいた
あと まつしますいぞくかん わ さくねん せ わ すいぞくかんしよくいん じんぐう こんかい すいぞくかんない くま み
た後、松島水族館へと向かいました。昨年お世話になった水族館職員の神宮さんに今回も水族館内を隈なく見せて
ただき じっさい うみ い もの ふ
いただき、実際に海の生き物に触れることもできました。

こんかいさん か りゅうがくせい なか うみ とお はな とち
今回参加した留学生の中には海から遠く離れた土地の
しゅつしんしゃ はじ じか み うみ うみ せいぶつ きょうみ しんしん
出身者もあり、初めて直に見る海や海の生物に興味津々
ようす しゅつぼつじ あまぞら おながわ
の様子でした。出発時はあいにくの雨空でしたが、女川
どうちやく は あ ふつ か め あさ かいせい
へ到着してまもなく晴れ上がり、2日目は朝から快晴に
めぐ たの ふつかん す おな
恵まれて楽しい2日間を過ごすことができました。同じ
かない い さんかしゃ どうじつはじ かお あ
キャンパス内に居ても、参加者は当日初めて顔を合わせ
ものがほとんどでしたが2日間は打ち解けて帰りのバス
なか かいわ はず み う りょうこう
の中での会話も弾んでいたように見受けられ、この旅行
をきっかけに長く交流が続くことを願っております。

せんせいがた しよくいん がくせい みなさま
フィールドセンターの先生方、職員および学生の皆様
あたた むか くだ こころ かんしゃ
が温かく迎えて下さったことに心より感謝してござ
す。ありがとうございました。

